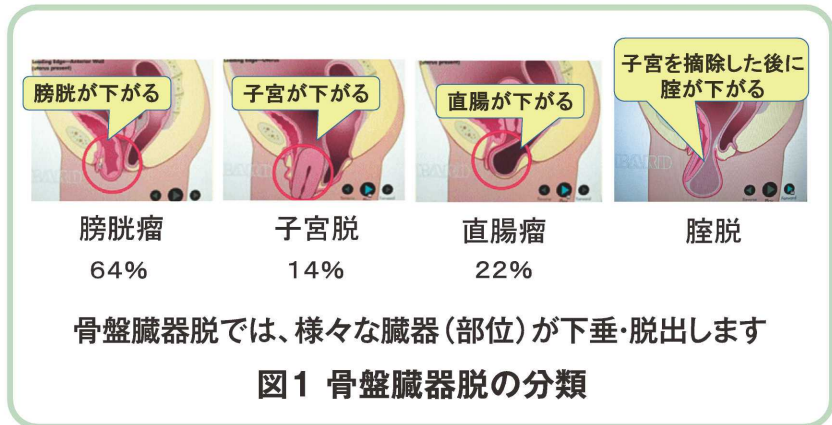


## ● 皆さん、骨盤臓器脱をご存じですか？

骨盤の中にある臓器の位置が下がり、下がった臓器やその臓器によって押された腔壁が脱出してくる病気を、**骨盤臓器脱 (pelvic organ prolapse : POP)** といいます。膀胱、子宮、直腸、小腸など様々な臓器が下がることもあり、各々を膀胱瘤、子宮脱(下垂)、直腸瘤、小腸瘤といいます。また、子宮筋腫など婦人科の病気で子宮を摘出された後に腔が脱出する場合(腔断端脱)もあり、これら全ての総称が骨盤臓器脱なのです。「子宮脱は聞いたことがある」と言う方がおられるかもしれませんが、実は、

子宮脱より膀胱瘤の方が多いのです(図1)。また、ひとつの臓器が単独で下がるのではなく、いくつかの臓器が同時に下がることが多くみられます。



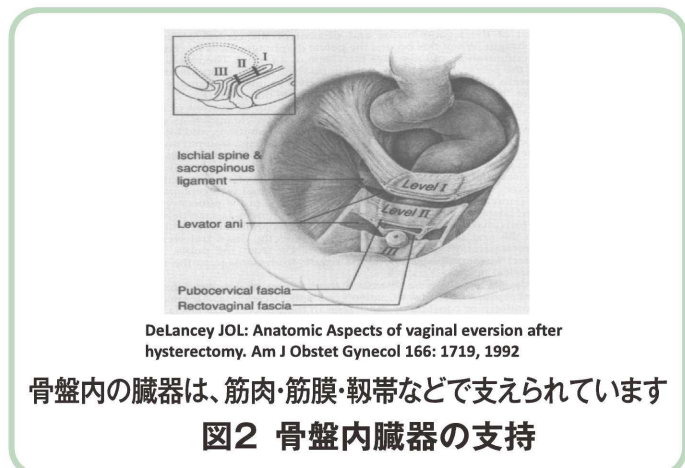
骨盤臓器脱は、決して珍しい

病気ではありません。欧米の調査では、出産経験者の44%に、骨盤内臓器の下垂あるいは脱出による症状があるという報告があります。さらに我が国では、急速に進む高齢化によって、今後も骨盤臓器脱の患者数が増加していくことが予想されます。当科でも、毎日多くの患者さんが受診されていますが、「だれに相談すればよいかわからない」「はずかしくて受診ができない」など、一人で悩んでおられる方々が大勢おられます。つまり、骨盤臓器脱は多くの患者さんが罹患する、**ごくありふれた病気**なのです。

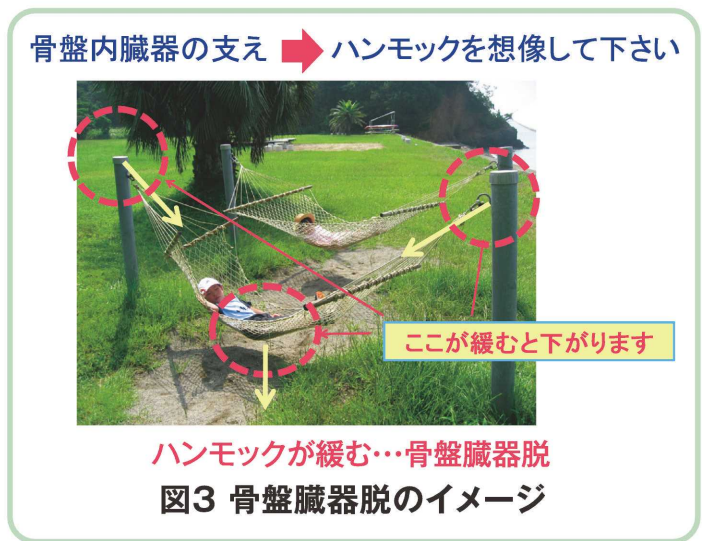
1) Samuelsson et.al. Signs of genital prolapse in a Swedish population of women 20 to 59 years of age and possible related factors. Am J Obstet Gynecol 1999 ; 180 : 299-305

## ● なぜ骨盤臓器脱がおこるのでしょうか

骨盤臓器脱の主な要因として、出産が挙げられます。出産で胎児が娩出される際に骨盤内臓器を支えている骨盤底の筋肉や筋膜(図2)などが損傷することで骨盤内の支持が弱くなり、その箇所から臓器が下がり脱出するのです。骨

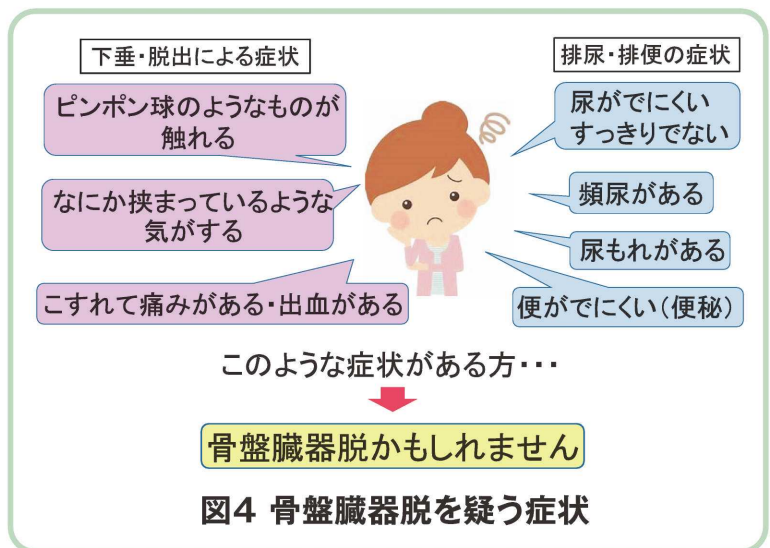


盤内臓器の支えがハンモックで、そのハンモックが緩んで下がるのが骨盤臓器脱だとイメージしてみてください(図3)。出産の他に、重い物を日常的に持つ仕事や生活環境、女性ホルモンの低下、加齢、肥満、慢性的な便秘や咳、体質など、様々な要因が考えられます。そして、骨盤内の損傷部位や要因の違いで、様々な脱出の部位や程度の違いが生じるのです。閉経後の方が受診されることが多いですが、出産後に臓器の下垂が発症した30歳代、40歳代の患者さんもおられます。



### ●骨盤臓器脱の症状(図4)

骨盤臓器脱には、「臓器の下垂・脱出による症状」と「排尿に関する症状」があります。たとえば、陰部にピンポン球の様なものが触れる、股間に違和感がある、こすれて痛みや出血がある、尿が出にくい、頻尿や尿失禁を認める、排便しにくい、といったものです。これらの症状は、重力や腹圧の影響を受けて、朝よりも夕方に増悪する傾向があるのが特徴です。



### ●“QOL疾患”である骨盤臓器脱

骨盤臓器脱は、直接生命に関わる病気ではありませんが、異物感や排尿の違和感など、不快な症状のために日々悩んでおられる方々が大勢おられます。このように、骨盤臓器脱は生活の質(QOL:クオリティー・オブ・ライフ)を低下させる“QOL疾患”の代表格なのです。

### ●骨盤臓器脱の治療について大事なこと

患者さんによって、骨盤臓器脱の症状に対する感じ方、困り方は様々です。従いまして、腫瘍を取り除く手術の様に、明確な治療の判断基準はありません。そのため、治療方針を決め



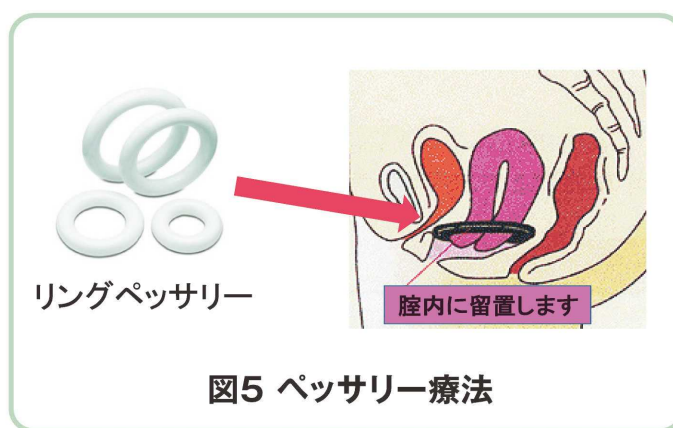
際には、患者さんに骨盤臓器脱がどのような病気であるかということと、その治療法について理解していただくことが重要です。そのために我々は、患者さんやご家族に丁寧な説明を行い、患者さん自身にとって最良の治療法を選択していただけるように心がけています。患者さんによっては、担当医の説明を聞き、ご自分の病状を理解された上で、治療自体を希望されないことがあります。その場合には、いったん経過観察として、何らかの治療を希望された時点で、再度方針を検討します。

## ●骨盤臓器脱の治療法について

骨盤臓器脱の主な治療法には、 pessary 療法と手術療法があります。

### (1) pessary 療法 (図5)

人工素材のリングを腔内に入れて、脱出しないようにする治療法です。簡便で効果的な方法で、いつでも治療を開始したりやめたりすることができます。ただし、腔粘膜のびらんや感染により、帯下(おりもの)の増加や出血の原因となることがあります。そのため、3~4か月毎に受診していただき、異常がないか診察を行います。また、夜間などにご自分で取り外しや挿入を行う自己着脱の方法をご説明します。自己着脱をすることができれば、 pessary による合併症を減らすことができます。



### (2) 手術療法

骨盤臓器脱に対しては、手術療法が根本的な治療法です。しかし、手術を行っても再び臓器が下垂してしまう(再発)が起こることがあります。約150年以上前から現在に至るまで、偉大な先人達が様々な手術を開発してこの課題に挑戦してきました。現在、骨盤臓器脱手術には、腔式手術、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術、人工素材(メッシュ)を用いる手術など様々な術式がありますが、未だ再発ゼロの術式はありません。そのため、より良い術式の開発が進められています。

### (3) その他の治療法

軽症の骨盤臓器脱の場合、増悪を抑えるために骨盤底筋トレーニングの指導をされることがあります。ただし、この体操によって、脱出が高度な骨盤臓器脱が治癒するものではありません。インターネットなどで矯正下着が販売されていますが、保険適応外の製品であり、当科では扱っていません。

## Q&A

**Q1** 骨盤臓器脱の診察ではどのようなことを行いますか？

**A1** まず、子宮や卵巣に治療の必要な疾患の有無を調べるために、①一般的な婦人科の診察（内診、経腔超音波検査、子宮細胞診など）を行います。骨盤臓器脱については、②POP-Q スコア（グローバル・スタンダードな表記法）での病状の評価を行います。骨盤臓器脱は、尿管や尿道などを圧迫して尿のスムーズな流れを妨げることがあるため、③超音波検査で水腎症の有無や残尿量の測定を行います。また、排尿のトラブル（下部尿路症状:LUTS）の評価を④排尿質問票で行います。必要に応じて、⑤MRIやCTを撮影することもあります。

**Q2** 骨盤臓器脱は必ず治療しないとイケないのですか？

**A2** いいえ、そのようなことはありません。骨盤臓器脱は、違和感、不快感、排尿困難感などの症状によって日常生活の質（QOL:クオリティー・オブ・ライフ）を下げってしまう病気です。しかし、一人ひとりの価値観が違うように、症状の感じ方、治療の希望は患者さんによって様々です。従いまして、当科では骨盤臓器脱と診断しても、すぐに手術などの治療を強くおすすめすることはありません。まず私達の説明を聞いていただき、①治療を受けるか受けないか、そして②どのような治療を受けるかは、患者さんご本人に選択していただきます。ただし、骨盤臓器脱が腎臓機能に悪影響を及ぼしている場合や、繰り返す尿路感染症の原因と考えられる場合には治療をおすすめします。

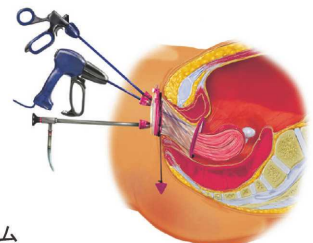
**Q3** どのような手術をされていますか？

**A3** 一般的に多くの婦人科医は、骨盤臓器脱手術として、腔から子宮を摘出して、腔壁を縫い縮めて補強（腔壁および会陰形成）する手術を行っていますが、我々は、以前より

NTR(native tissue repair : 人工素材を用いない手術)として、更に仙骨子宮靱帯固定術 (Shull法)を行ってきました。昨年よりNTRをより安全かつ確実に行うために、v-NOTESと呼ばれる経腔的な腹腔鏡手術（おなかに創がない腹腔鏡手術）で子宮摘出とShull法を行っています。(図6)



GelPOINT® V-Path  
トランスヴァジナルアクセスプラットフォーム



奈良県下で最初に  
v-NOTESによる骨盤臓器脱手術を開始しました  
**図6 v-NOTES(経腔的な腹腔鏡手術)**



また当科では、ロボット支援下手術（ダヴィンチ）を導入し、RSC（ロボット支援下仙骨腔固定術）という、人工素材（非吸収性のメッシュ）を用いる手術を開始いたしました（図7）。

新しい手術といいますが万能ではありません。それぞれの手術には、メリット・デメリットがあります。そのため、術式は臓器脱出の程度、年齢、出産歴、併存症（治療中の病気）、手術経験の有無などを総合的に評価して決めます。



適応症例にはダヴィンチによる  
ロボット支援下手術を行います  
図7 ロボット支援下骨盤臓器脱手術

#### Q4 どのようにして受診すればよいのでしょうか？

A4 奈良県西和医療センターの産婦人科以外の診療科を受診されている場合は、担当医へご相談下さい。当院を受診されていない場合は、お近くの産婦人科クリニック、もしくはかかりつけ医療機関（婦人科以外でも構いません）の医師にご相談下さい。産婦人科の予約をお取りすることができます。※診療情報提供書がない場合、選定療養費が加算されます。

#### ■■ 地域住民公開講座のお知らせ ■■

奈良県西和医療センターが主催する『地域住民公開講座』で“骨盤臓器脱”についてお話しします。ご興味のある方は、是非お越し下さい!!

- 日時：2025年（令和7年）2月6日 開演：14:00
- 場所：王寺町地域交流センター リーベルホール  
（リーベル王寺東館5階）
- 演題：骨盤臓器脱をご存じですか～産婦人科医が詳しくお話しします～
- 講師：奈良県西和医療センター産婦人科部長 春田 祥治

**費用無料！  
事前申込不要！**

#### ●最後に…

いままで「どうしてこのような不快な症状があるだろうか」とか、「なにか悪いできものができたのではないか」など、だれにも言えずひとり思い悩んでいたけれども、この冊子で“骨盤臓器脱”を知って一度相談したいという方がおられましたら、是非当科を受診してください。